あとがき

今回の展覧会は，ケネス・ノーランド KENNETH NOLAND（1924～）の新作のペインティング（アクリル・カンバス）11点の展示である．恐らくわが国では初めてのノーランド展であると思う．この展覧会のためにカタログを作成したが，テキストはノーランドの仕事にくわしいウィルキン女史Ms.WILKINおよび早見堯さんの日米お二人の評論家にご寄稿いただいた．翻訳は小川ハル子さんにお願いした．以上3氏の御協力に厚く御礼申し上げる．またこの展覧会のためにポスターを作成したことを申し添えて置きたい．

今年の3月，私は女房とともにニューヨークへ行きアラカワ・シュウサク，クリストのスタジオを訪問しそれぞれ今年の展覧会の最終打ち合せを行った．その際，一日，ノーランドのスタジオを訪問する機会に恵まれた．案内役はジム・バード，柳正彦の両氏で，セントラル駅から列車に乗りバス，乗用車と乗り継いで約2時間，ニューヨーク州ではあるが，コネチカット州がすぐそばというSOUTH SALEMなる村に行った．ノーランドのスタジオは山のなかでまことに深閑と静まり返った場所にある．ゆったりとした天井の高い仕事場である．残念ながら，ノーランド氏にはその時丁度旅行中で逢えなかったが，そこで作品を何点かみた．堂々とした気持のいい画面に出会いスカッとした気分になったのはうれしいことであった．

ノーランドの仕事についてはカタログのウイルキン女史，早見堯さんの文章をお読みいただければお分りいただけるが，蛇足ながら一言述べて置きたい．すなわち，ノーランドはアメリカの色面派（カラー・フィールド・ペインティング）の代表的な作家であること，彼はやはり色面派の大家で亡くなったモーリス・ルイスの親友であったこと――ついさき頃催された滋賀県立近代美術館のモーリス・ルイス展は見事であった――，当画廊でこの4月，J.アルバース展（オマージュ スクェヤー）を開催したが，そのアルバースの弟子であったこと等である．

ノーランドの作品はアメリカ・ヨーロッパの現代美術館でよくお目にかかる（カタログの美術館収蔵リスト参照）．またニューヨークの大きなビルのロビーの壁面でその作品をみかける．しかしわが国では原美術館を除いて，殆んど見る機会がない．

しかしながら，東京の銀座のさるところに一点，ノーランドの小品がある．そこは知る人ぞ知るバー“ガストロ”である．このバーは10人も座ればそれで満員という小さなバーであるが，そこにかかっている作品は瀧口修造，クリスト，ジョーンズ，サム・フランシス，ティンゲリィ，加納光於，スガイクミ，高松次郎等々著名な内外の現代作家の作品で，満たされ，超ミニ現代美術館の観を呈している．そのバーの入口の右側の壁にノーランドのシェヴロン型（山型）の小さな油彩があるのである．私はわが国でノーランドの作品はこれ以外に見たことがない．その意味からも当画廊のノーランド展はそれなりの意味があると私は思っている．

この展覧会はバルセロナのギャラリー・ジョアン・プラッツ GALERIA JOAN PRATS のムーガ氏 JUAN de MUGA にご協力いただいた．厚く御礼申し上げる．

ケネス・ノーランド氏はこの展覧会のために来日され，11月25日のオープニングパーティに出席し，しばらく日本に滞在される予定である．勿論，ガストロへはノーランド氏をムーガ氏ともども案内し，そこで乾盃することになるであろう．それを今から楽しみにしている．ノーランド氏の日本滞在が気持のいいものであることを希うとともに今後の御健勝を心から祈念するものである．

1986年11月3日

佐谷画廊　佐谷和彦